

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



こんな時、どうしますか？

「帰るわよ!」「いやだ!もっと遊びたい!」「早くしないと、〇〇に間に合わないわよ。終わったらアイス買ってあげるから、急いでお願い!」「は〜い。・・・ありませんか?こんな場面。時間が気になって、最後はついモノで釣ったりして・・・ないか・・・?

幼稚園では、こんな場面に出会いました。ある日のこと、「もっと遊びたい!」とすねた顔で答えるよっくん(仮名)に「うめ組さんは、先に帰るけどいい?」「どうする〜?よっくん〜」本当は一刻も早くお部屋



に帰ってきて欲しいだろうのに、ちっとも急いでいる風でもなく、担任の先生はよっくんに自分で考えさせ、どうするのかを決めさせていました。「自己決定」させていたのです。

「自己決定」と対の言葉に「自己責任」というのがあります。もしこの時、よっくんが自分で「まだ遊ぶ」と決めたとしたら、うめ組さんがみんな帰ってしまった後で、一人さみしい思いをしたとしても、それは自分で決めたことの結果です。「自分の責任」です。よっくんは、「あ〜、やっぱり先生に言われた時にお部屋に帰れば良かったな」と思うでしょう。そして、次は、もしかすると素直に動けるようになるかもしれません。先生は、今日よっくんが失敗したとしても、明日は自分で正しい行動がとれる子に育てようとしているのだと思いました。この時、よっくんはちょっと考えたあと、そろそろと先生と戻って行きました。

目先の大人の都合で子どもを動かすのではなく、一日先、一週間先、一年先に自分で判断して動ける子に育てる意識を持つこと。これは、「子育て奥義」の1つです。モノで動かすことは、「拗ねればモノが手に入る」という間違っただけの学習(外的動機付け)をしますから更に良くないことは言うまでもありませんね。

ただ、「言うは易く行うは難し」です。マスターするには、少々修行が必要。大人(親)が、心の余裕と時間の余裕をもって子どもと向き合うことが肝要です。いざ行かん!果てしなき「子育て修行」の旅路へ!

それにしても、名前からして由緒ありそうなエンドウ豆だ。鞘は紫、豆は緑、ご飯と一緒に炊くと、豆は紫色に変わり、ご飯が赤く染まってまるで赤飯のようになるのだそう。なんと、今年は大豊作らしい。大量の豆を、年長さんは「いち、二、三、四、五、六、七、八、九、十」と数えながら、皆、実に根気よく剥いたのだそうである。おそらく、とても自然な「数」との出会いの場となったに違いない。

あつ!これは、小学校一年生の初めての算数の授業で使えるなど思った。実物の豆を見せて、幼稚園での収穫体験を思い出させ、豆を効率的に数えたいくなる状況や、記録する必要感を持たせて数唱や記数法に導くことができるのではないかと。子どもたちは、幼稚園での共通体験から、イメージを共有し、同じ土俵でコミュニケーションできる。もし、エンドウ豆を知らない友だちがいるのなら、写真やビデオを見せて、説明してあげられる場を仕組み、国語の「話す・聞く」の学びが始まるだろう。幼稚園と小学校の学びをどのように繋いでいくのが全国で研究されている。「エンドウ豆」の可能性は無限大だと思う。



「エンドウ豆の魅力発見!」

5月11日(木)

4月生まれ

1年の成長はすごい! おたんじょうび会!

